

国土交通省におけるスマートシティの取組

国土交通省 都市局
令和2年10月30日

スマートシティモデルプロジェクトの選定

◆先行モデルプロジェクト

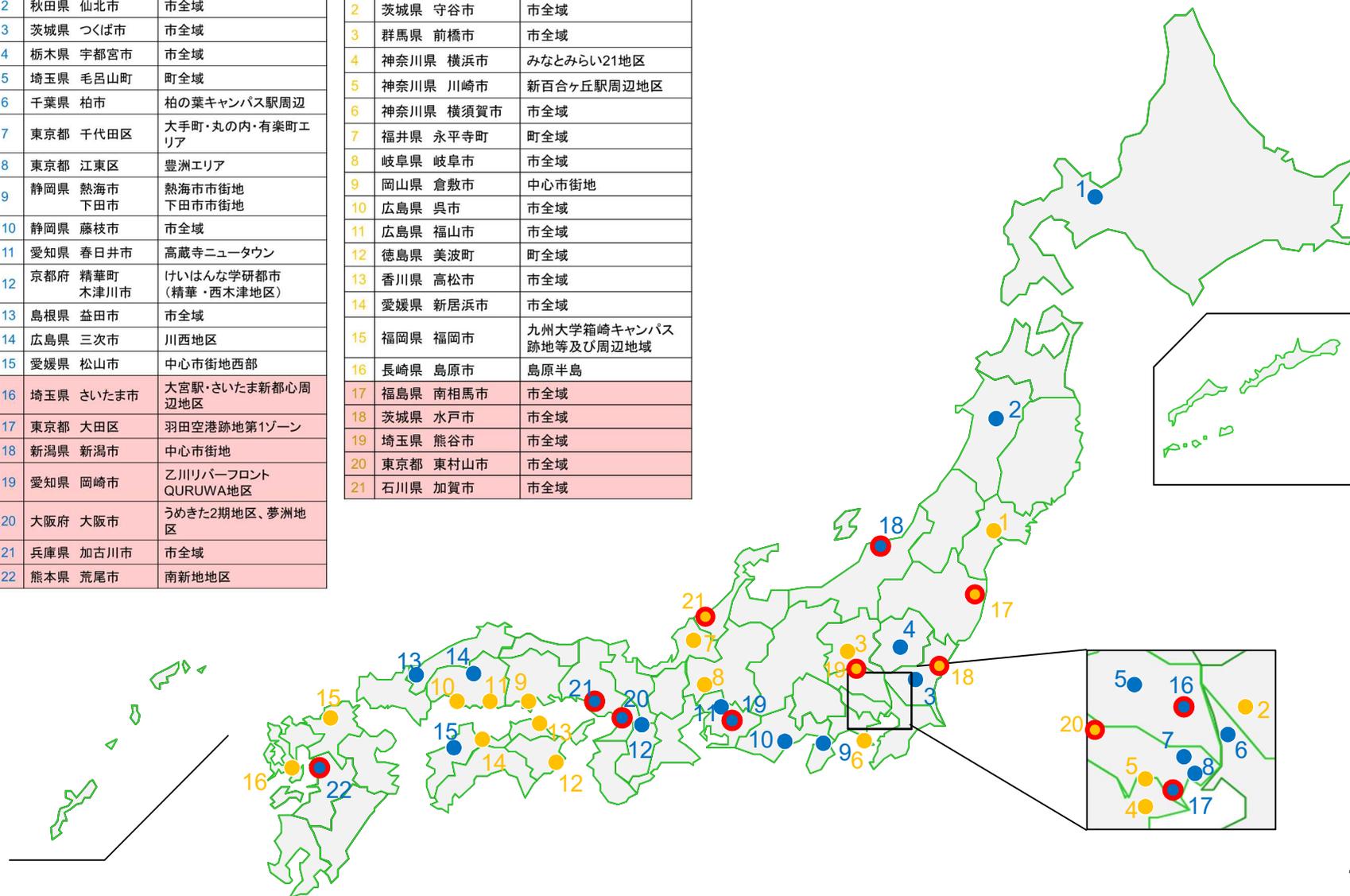
番号	プロジェクト実施地区	対象区域
1	北海道 札幌市	市の中心部および郊外
2	秋田県 仙北市	市全域
3	茨城県 つくば市	市全域
4	栃木県 宇都宮市	市全域
5	埼玉県 毛呂山町	町全域
6	千葉県 柏市	柏の葉キャンパス駅周辺
7	東京都 千代田区	大手町・丸の内・有楽町エリア
8	東京都 江東区	豊洲エリア
9	静岡県 熱海市 下田市	熱海市市街地 下田市市街地
10	静岡県 藤枝市	市全域
11	愛知県 春日井市	高蔵寺ニュータウン
12	京都府 精華町 木津川市	けいはんな学研都市 (精華・西木津地区)
13	島根県 益田市	市全域
14	広島県 三次市	川西地区
15	愛媛県 松山市	中心市街地西部
16	埼玉県 さいたま市	大宮駅・さいたま新都心周辺地区
17	東京都 大田区	羽田空港跡地第1ゾーン
18	新潟県 新潟市	中心市街地
19	愛知県 岡崎市	乙川リバーフロント QURUWA地区
20	大阪府 大阪市	うめきた2期地区、夢洲地区
21	兵庫県 加古川市	市全域
22	熊本県 荒尾市	南新地区

◆重点事業化促進プロジェクト

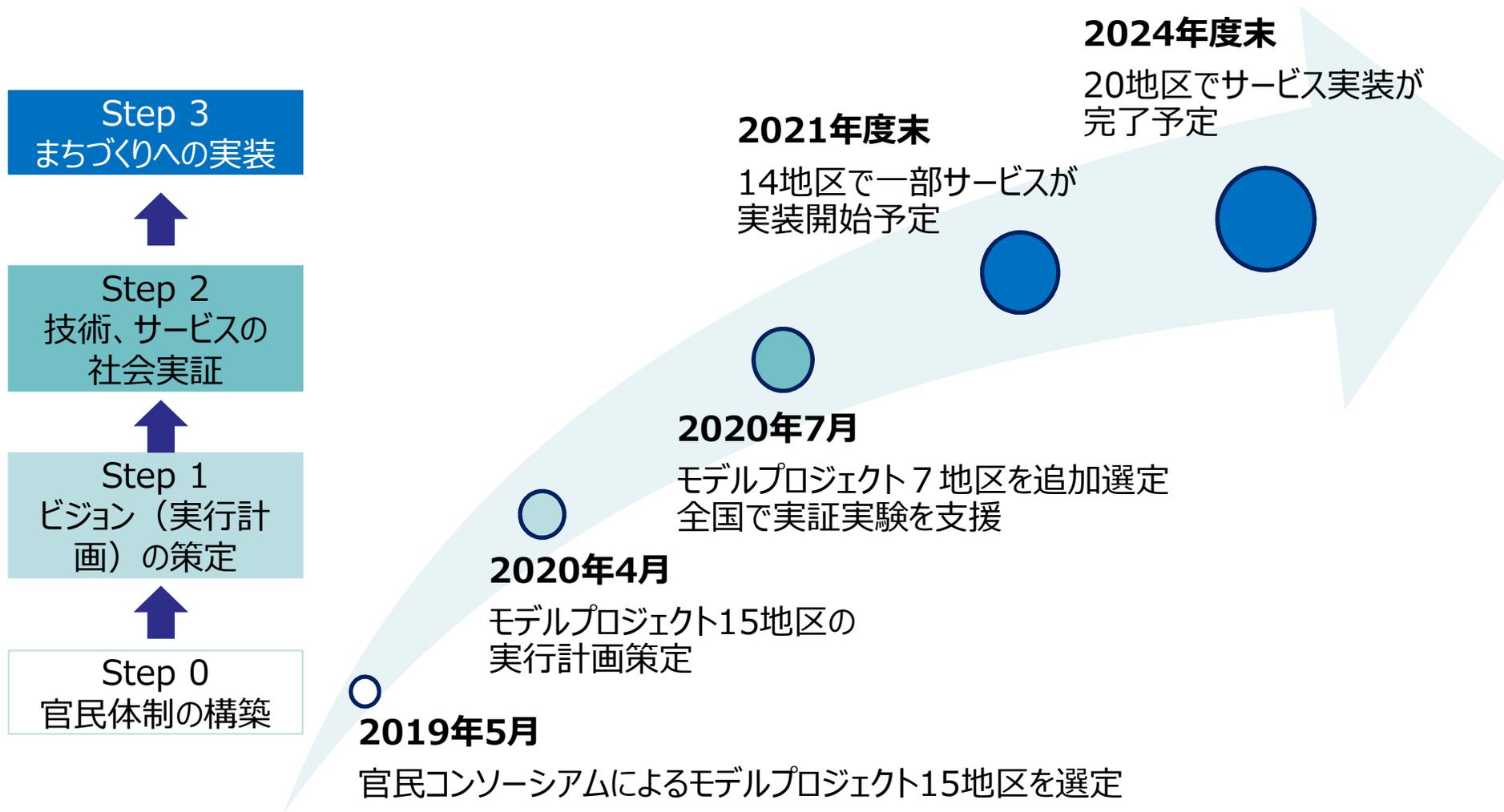
番号	プロジェクト実施地区	対象区域
1	宮城県 仙台市	泉パークタウン
2	茨城県 守谷市	市全域
3	群馬県 前橋市	市全域
4	神奈川県 横浜市	みなとみらい21地区
5	神奈川県 川崎市	新百合ヶ丘駅周辺地区
6	神奈川県 横須賀市	市全域
7	福井県 永平寺町	町全域
8	岐阜県 岐阜市	市全域
9	岡山県 倉敷市	中心市街地
10	広島県 呉市	市全域
11	広島県 福山市	市全域
12	徳島県 美波町	町全域
13	香川県 高松市	市全域
14	愛媛県 新居浜市	市全域
15	福岡県 福岡市	九州大学箱崎キャンパス跡地等及び周辺地域
16	長崎県 島原市	島原半島
17	福島県 南相馬市	市全域
18	茨城県 水戸市	市全域
19	埼玉県 熊谷市	市全域
20	東京都 東村山市	市全域
21	石川県 加賀市	市全域

※赤着色はR2年度に追加選定された地区

第一次選定:2019年(R1年)5月
第二次選定:2020年(R2年)7月



スマートシティモデルプロジェクトの進捗見込み



	2019	2020	2021	2022	2023	2024~
一部サービスを実装した 事業地区数(年度末:累積)		8地区	14地区	17地区	20地区	21地区
全てのサービスを実装した 事業地区数(年度末:累積)		—	1地区	8地区	14地区	20地区

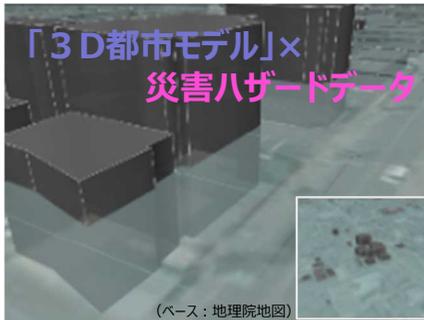
(世界水準の「3Dデジタルマップ」に基づく、全体最適、市民参加型の機動的な都市インフラ開発・まちづくり)

「3D都市モデル」の構築：まちづくりのデジタル基盤



- あらゆる都市データの基盤として、2次元地図から「3D都市モデル」を構築
- まずは、**全国数十都市において先行モデルを製作**
 - ・必要なデータ収集（調査、航空測量等）
 - ・都市計画基礎調査情報の充実（建物・地盤の高さ、属性(木造/RC造/鉄骨造)等）
 - ・データ変換（GIS化、3D表示化）等
- 全国共通の仕様**で作成し、**データをオープン化**
⇒行政、民間事業者、住民が用途に合わせて活用

「3D都市モデル」×都市活動データ（防災、環境・エネルギー、交通等）



- 【活用例】
- デジタル上の3Dマップに、課題に応じて関連データ（浸水想定、気温、CO2排出量、人流・物流等）を挿入
 - 各課題について、より現実に近い形で、具体的・精緻に構想・シミュレーション等を展開（＝デジタルツイン）

イメージ

「3D都市モデル」×BIM/CIMデータ（施設の詳細情報等）



- 【活用例】
- 基盤となる「3D都市モデル」に構造や大きさ・高さ、ガラス透過率、壁面素材といったBIMデータを追加
 - 日影や風、光環境（光の吸収や反射）をはじめとしたまちの環境への影響などを詳細に解析し、一連のまちづくりに係るシミュレーションを実現

“City as a Service” の実現

全体最適・持続可能なまちづくり

・防災、環境、交通等の個別課題毎でなく、分野横断・一体的なシミュレーションに基づいた、全体最適の構想・計画により持続可能なまちづくりを推進

人間中心・市民参加型のまちづくり

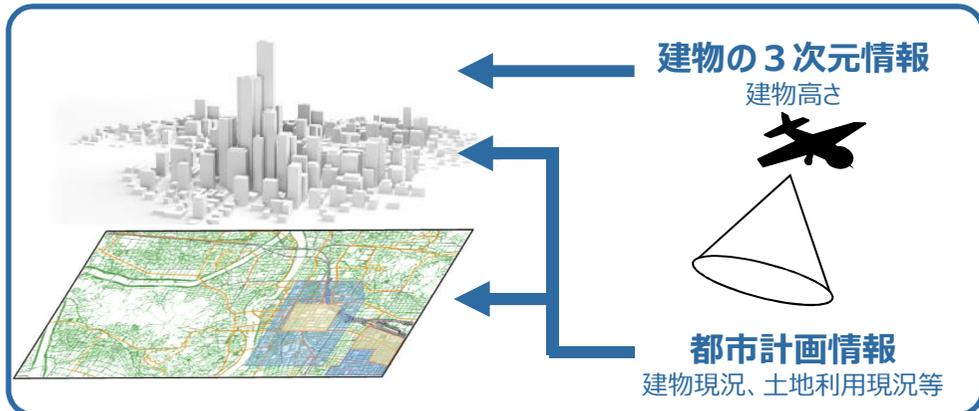
・立体モデルの具体的で精緻なまちの現状・将来パターンを、一部の専門家でなく市民レベルに共有
・課題を市民目線に落とし込み、多様な主体の知恵・思いを詰め込んだ参加型、実験型のまちづくり

機動的で機敏なまちづくり

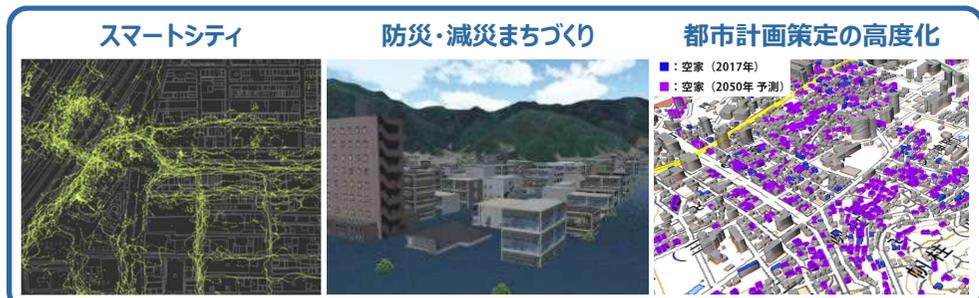
・年度毎等のまちの静的なデータに、人の流れなどの動的なデータを補完することにより、都市活動の状況をより精緻に再現・予測。
・最新技術も活用し、機敏なまちづくりを実現

3D都市モデルにかかる今年度の取組概要

○全国50都市程度で3D都市モデルを作成



○3D都市モデルのユースケースを開発



アウトプット

3D都市モデル、製品仕様書・作成手順書の作成・公表

利活用マニュアル、活用事例集（暫定版）の作成・公表
（都市活動のモニタリング、災害ハザード、将来像の可視化など）

○自治体において3D都市モデルをオープン化、維持更新



○国土交通データプラットフォーム等との連携

全国の3D都市モデルのデータやユースケースを表示・検索



全体最適、市民参加型の機動的な都市インフラ開発・まちづくりの実現

○デジタル化の急速な進展やニューノーマルに対応した都市政策のあり方検討会

- ・ デジタル化の急速な進展や新型コロナ危機がもたらすニューノーマルなどを背景に、市民の生活スタイルや社会経済システムはドラスティックに変容。
- ・ 最近の都市政策の動向等を踏まえ、社会的変化に対応しつつ、都市アセットの利活用を通じた市民のQoL（Quality of Life）の大幅な向上を図るため、今後目指すべきまちづくりの方向性はどのように変化していくのか、これを実現するための都市政策をどのように変革していくべきかについて検討

【1. 検討事項】

（1）目指すべきまちづくりの方向性

- ・ デジタル化の急速な進展やニューノーマルへの対応により、生活スタイルや都市活動にどのような変化が生じているのか。
- ・ こうした生活スタイルや都市活動の変化により、今後目指すべきまちづくりの方向性はどのように変化していくのか。

（2）目指すべきまちづくりの方向性を実現するための都市政策のあり方

- ・ 都市アセットの利活用や都市サービスのあり方
- ・ まちづくりに関するデータの利用環境の改善
- ・ まちづくりの担い手、検討プロセス、支援策等のあり方

【3. スケジュール】

- ・ 令和2年10月6日（火）第1回以降、令和2年度中に全6回程度開催
- ・ 令和2年度末に、とりまとめ

【2. メンバー】

- 出口敦 東京大学大学院新領域創成科学研究科教授【座長】
秋田典子 千葉大学大学院 園芸学研究科 准教授
伊藤香織 東京理科大学 理工学部 教授
梅澤高明 A.T.カーニー日本法人会長／CIC Japan会長
坂井文 東京都市大学 都市生活学部 教授
関本義秀 東京大学 生産技術研究所 准教授
谷口守 筑波大学大学院 システム情報系 教授
中川雅之 日本大学 経済学部 教授
村木美貴 千葉大学大学院 工学研究院 教授
馬場正尊 東北芸術工科大学デザイン工学部 教授
中村彰二郎 アクセンチュア・イノベーションセンター福島 センター長

【オブザーバー】（一社）日本経済団体連合会、（一社）不動産協会、（独）都市再生機構

【関係省庁】 内閣府、総務省、経済産業省、国土交通省大臣官房技術調査課、総合政策局公共交通・物流政策審議官部門、国土政策局、住宅局

【事務局】 国土交通省都市局